

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成22年3月18日(2010.3.18)

【公開番号】特開2008-281637(P2008-281637A)

【公開日】平成20年11月20日(2008.11.20)

【年通号数】公開・登録公報2008-046

【出願番号】特願2007-123581(P2007-123581)

【国際特許分類】

G 0 2 B 5/30 (2006.01)

G 0 2 F 1/13363 (2006.01)

G 0 2 F 1/1335 (2006.01)

C 0 9 J 133/00 (2006.01)

C 0 9 J 201/00 (2006.01)

C 0 9 J 175/04 (2006.01)

C 0 9 J 179/08 (2006.01)

C 0 9 J 169/00 (2006.01)

B 3 2 B 27/30 (2006.01)

C 0 9 J 7/02 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 5/30

G 0 2 F 1/13363

G 0 2 F 1/1335 5 1 0

C 0 9 J 133/00

C 0 9 J 201/00

C 0 9 J 175/04

C 0 9 J 179/08 Z

C 0 9 J 169/00

B 3 2 B 27/30 A

C 0 9 J 7/02 Z

【手続補正書】

【提出日】平成22年1月29日(2010.1.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0097

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0097】

本発明の光学フィルムは、図2に示すように、ディスコティック液晶層3が形成されない側の、透明基材フィルム1の片面には偏光子6、次いで、透明保護フィルム7が積層されているものを用いることができる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0098

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0098】

偏光子6は、接着剤を用いて、透明基材フィルム1に貼り合せられる。なお、図2では、透明基材フィルム1は、偏光子6の透明保護フィルムを兼ねているが、透明基材フィル

△ 1 には、偏光子の片面または両面には透明保護フィルムを有する偏光板を積層することもできる。